

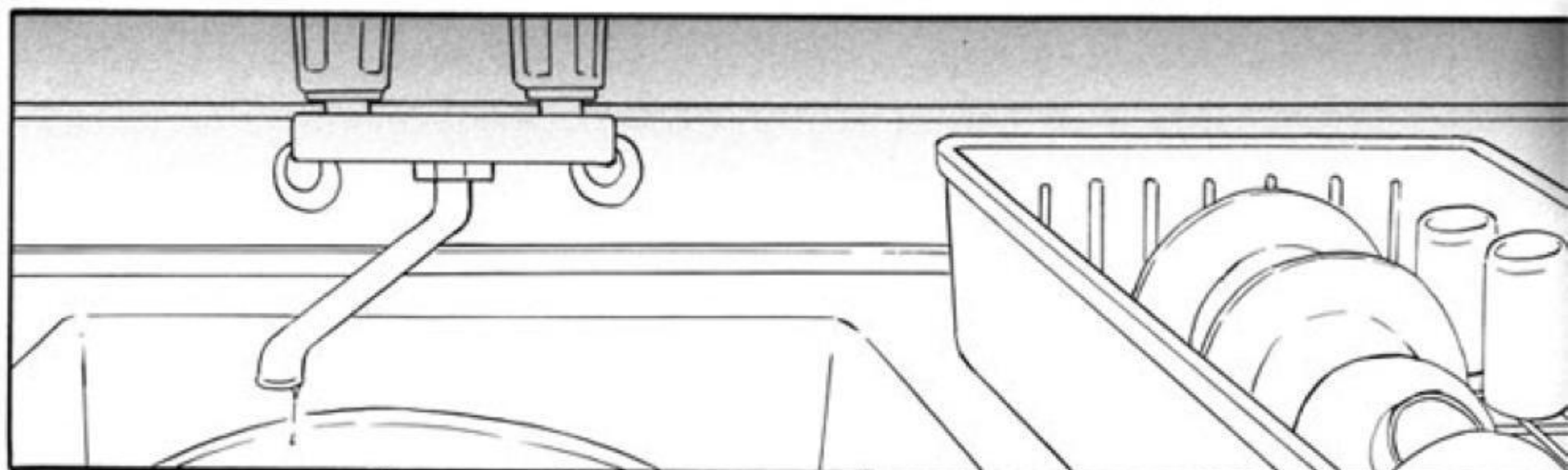


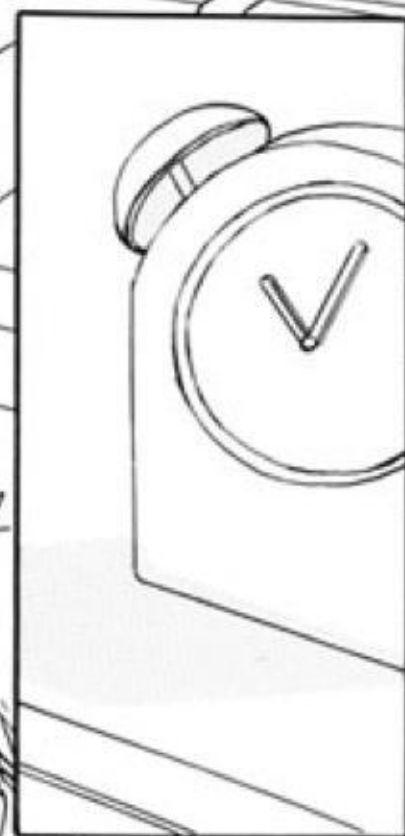
ナルカ

KAKASHI × NARUTO

R-18

「キミノオト」











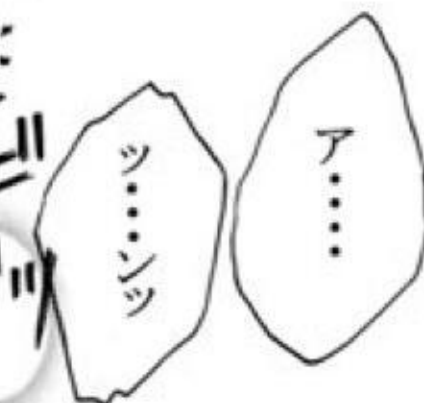
だけど

不安に
駆られるように

一緒にいる











「そんでき、
そんでき！
カカシ先生！」



「うん、おっさんが
若い恋人を選ぶのは
カラダ目的だからね」



「カカシ先生のアホ！」

「“おっさん”に“アホ”か
ナルトの好みに
ぴったりじゃないか？」

「全然ちげーよ！」



あの頃とは

何が違うんだろう…







...

ダメだね
こういふとは...

経験なんて
役に立たないことが
あるんだって
思い知らされる...



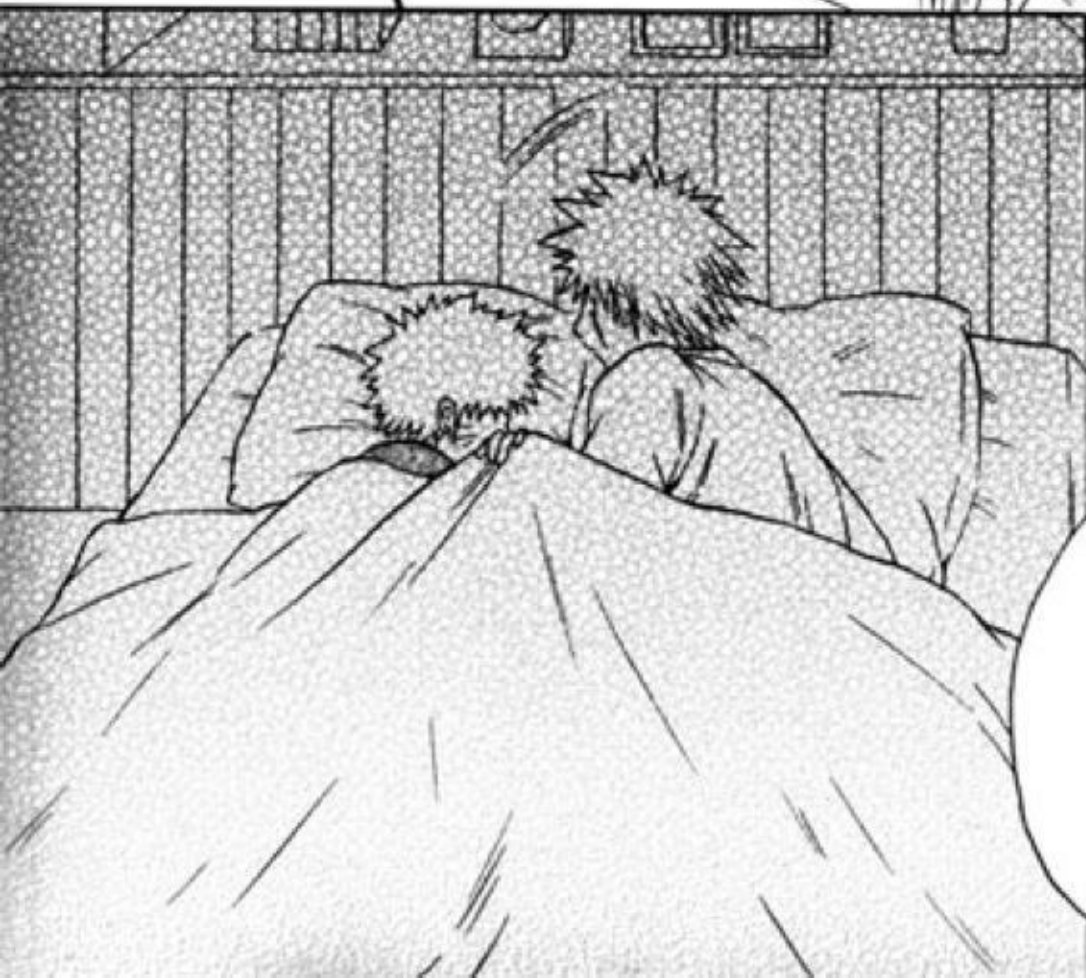
...あ...
カカシ先生、明日
早いんだったよな？

オレ向こうで
寝ようか？

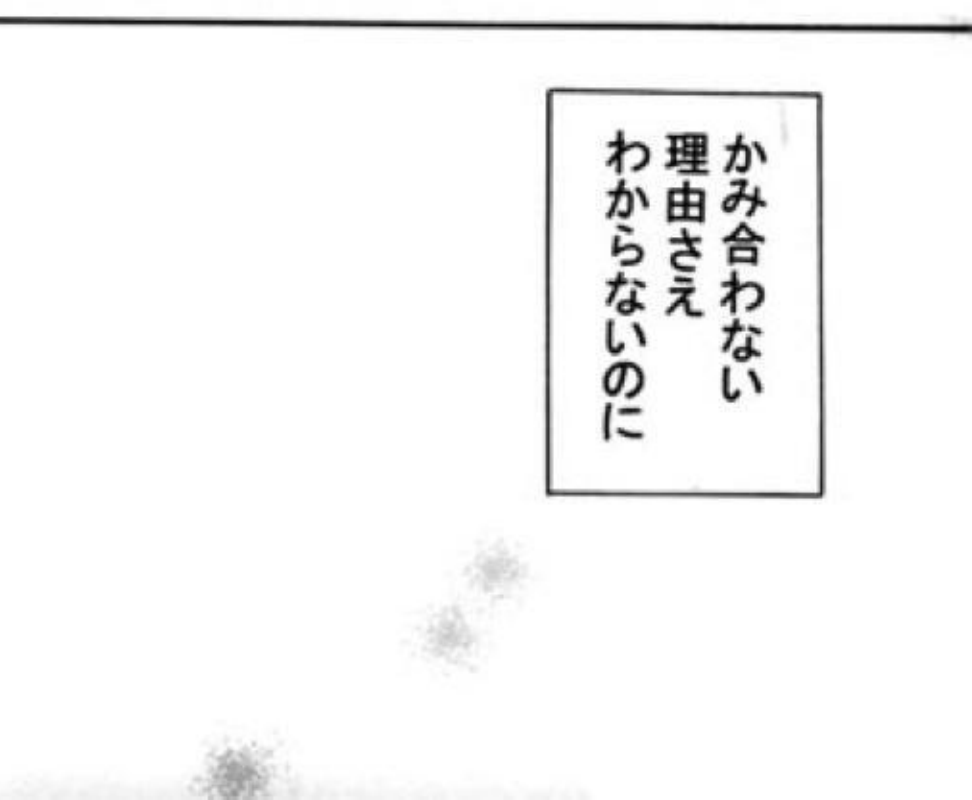
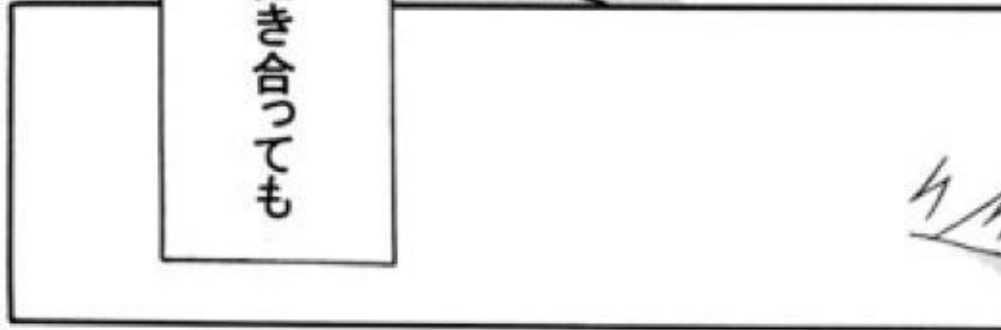
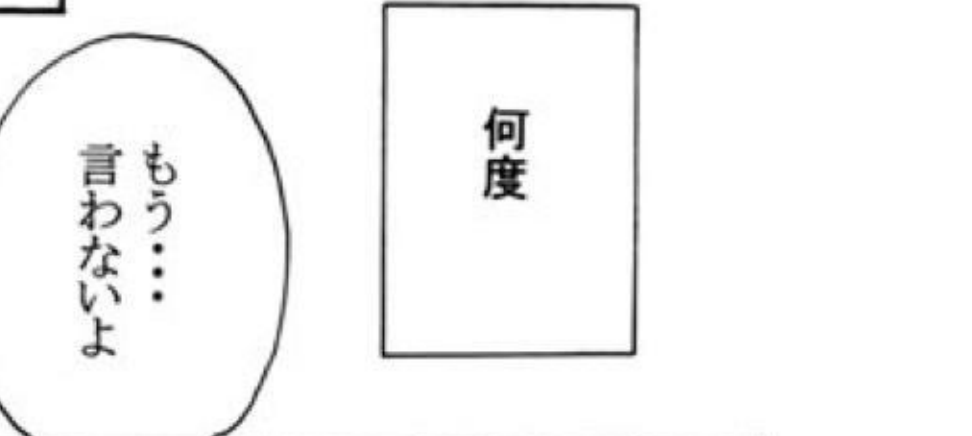


朝、オレが起きても
寝てていいから
ここで一緒に寝て？

……いや……

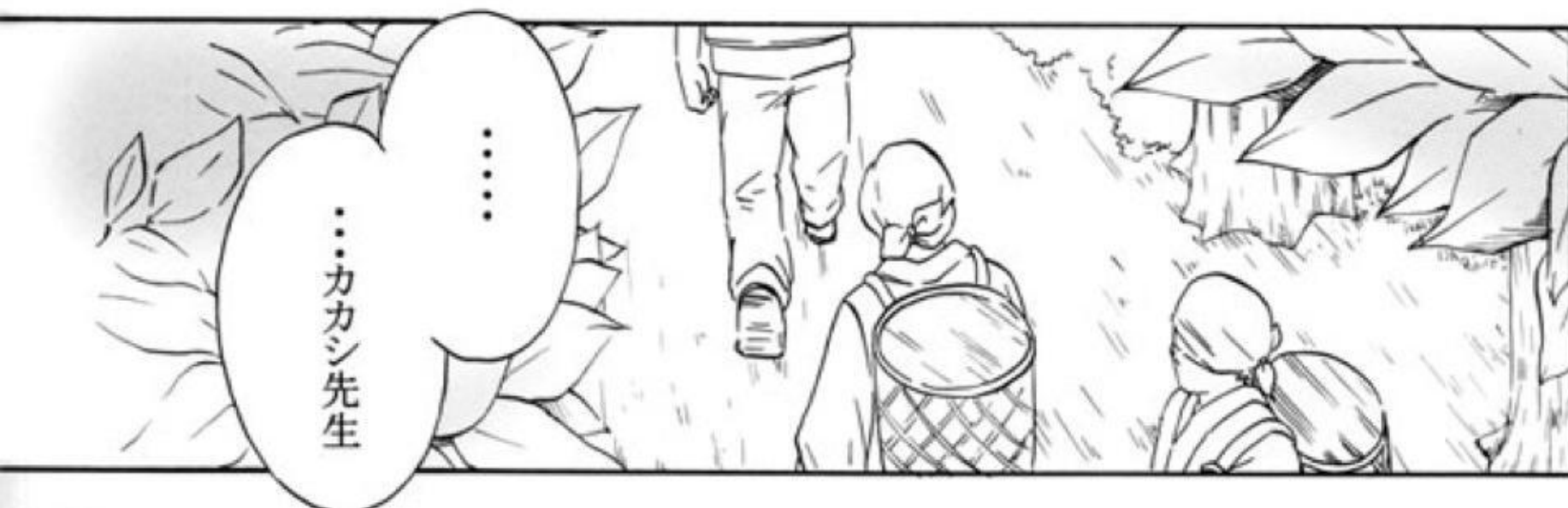


……また
「そう」って言うかと
思ったつてばよ……



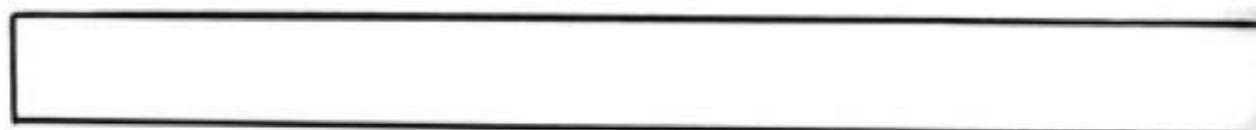
なのに...

どうして一緒に
いるんだろう...









ト
ス
ン!



…ホント…
ごめんつてばよ…
怪我する前に
防ぎたかったん
だけど…

まさかいきなり
起爆札使われるなんて
思いもしなかったから…

うん
ちとね…

いたい？

襲われたらまず
起爆札を使って
逃げる作戦を
使ってたみたいね！

何を
考えてるんだ…

…悪かったな
サクラ…

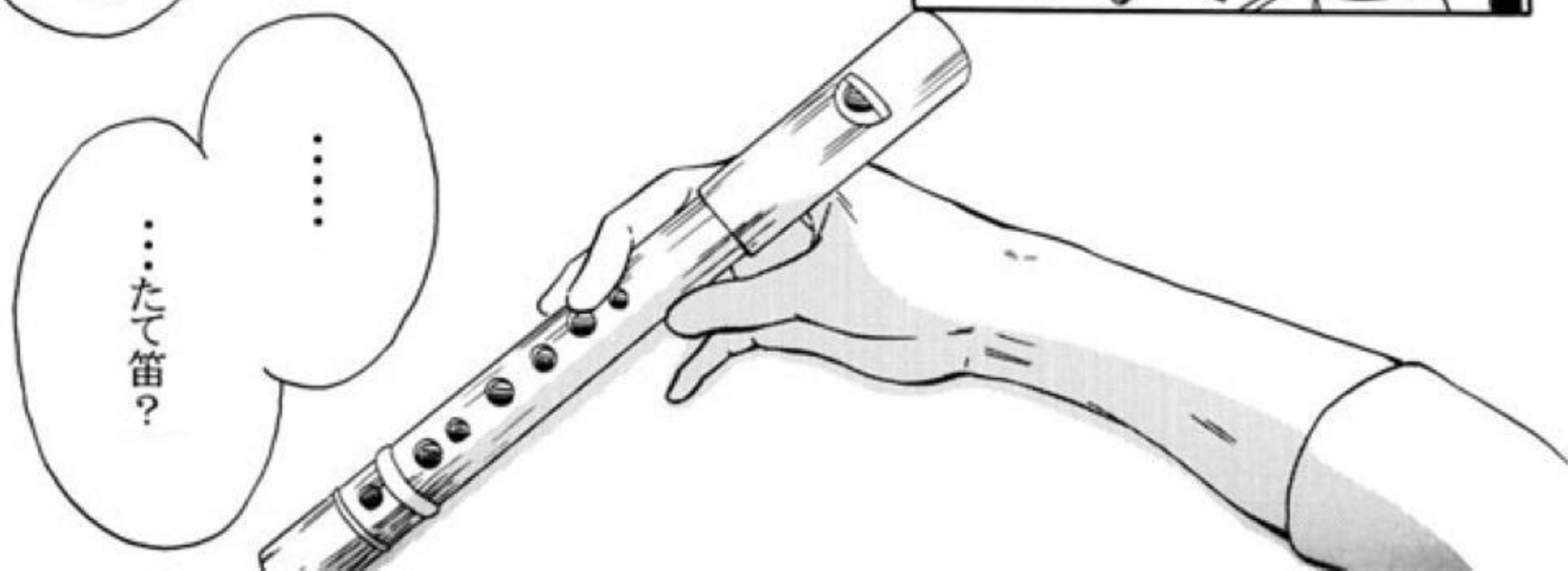
オレの作戦が
甘かった…

ナルトの言うことを
もう少しじっくり
考えるべきだった…

…すまなかった

ナルトは仲間として
言ってるだけじゃ
ないか…

今更どうして
サクラのことが
気になってるんだ
…







トン
トン

はい

サクラ……
検証中にごめんね
綱手様が押収物のことで
急ぎ確認があるから
今すぐ来て欲しいって

分かりました
ちようど今
終わったところなので
すぐ行きます！

……じゃ
カカシ先生、
ナルト……
後片付け
任せていい？
悪いけどお先に！

あ……ああ
うん！
お疲れっばよ！

バ
ン

……



前にどこかで聞いたことがあるー

昔、今は滅んだ忍びの里の忍具作りの達人と呼ばれた忍者が笛の忍具の試作に挑戦して失敗し…大量に失敗作を破棄したと…

そしてその時一部が流出してしまったと…

その笛は“倍音”が人の言葉になつて聞こえるよう術式が組まれていた忍具だったらしい

昔の話だと
言われていたし
あまり気にも留めて
いなかったが…

どうしてここに
混ざつてたのかは
わからないが…
おそらくこの笛が
その忍具だよ

カ…カカシ先生？
“ばいおん”って
何だつてばよ？

…ん？

その音自体の
倍数の振動を持つ
音のことだよ



“音”というのは
空気の振動が伝わり
聞こえているものなんだが

どんな音も1つの音ではなく
実は複数の音から
成っていて...

その基本となる音
以外の音を作る
成分のことを
“倍音”というんだよ

...ふ...
ふーん...???

???

...で?
そのばいおんつてのが
言葉になるって
言ったっけ?

...人は音を聞くとき
その基本となる音以外にも
知らず知らずに他の音を
含めて形成された総合音を
聞いてその音を判断して
いるんだが...

ああ...

元々は敵の心を
乱すための道具として
聞く者の心につけ入り
敵の認めたくない本音に
笛の倍音を変化させ
聞かせるよう考案
されたが...

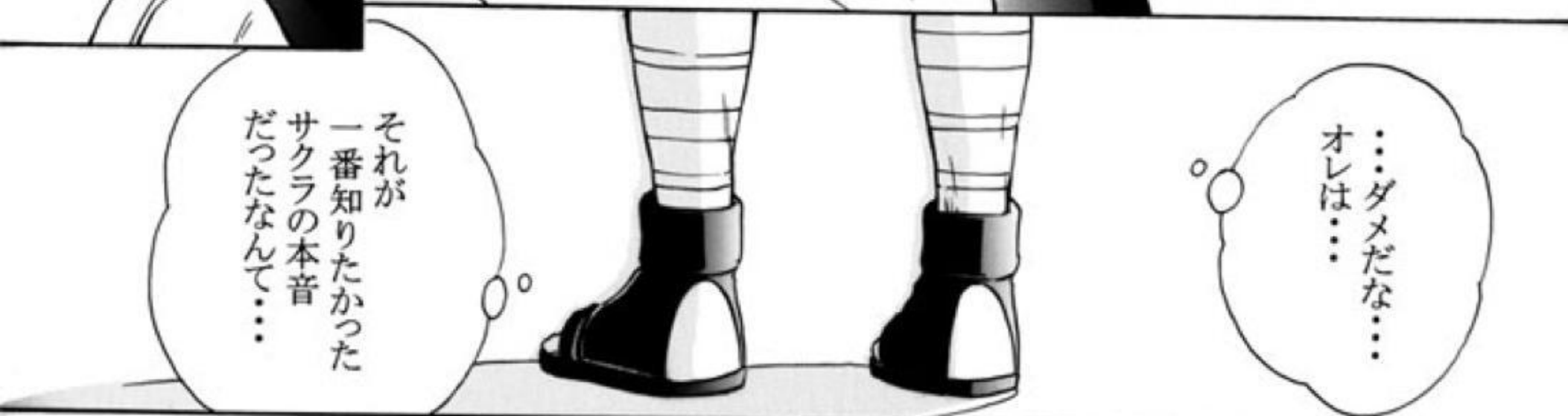
逆に、
術者本人の本音が
変化する道具になって
しまったと聞いた...

...え?

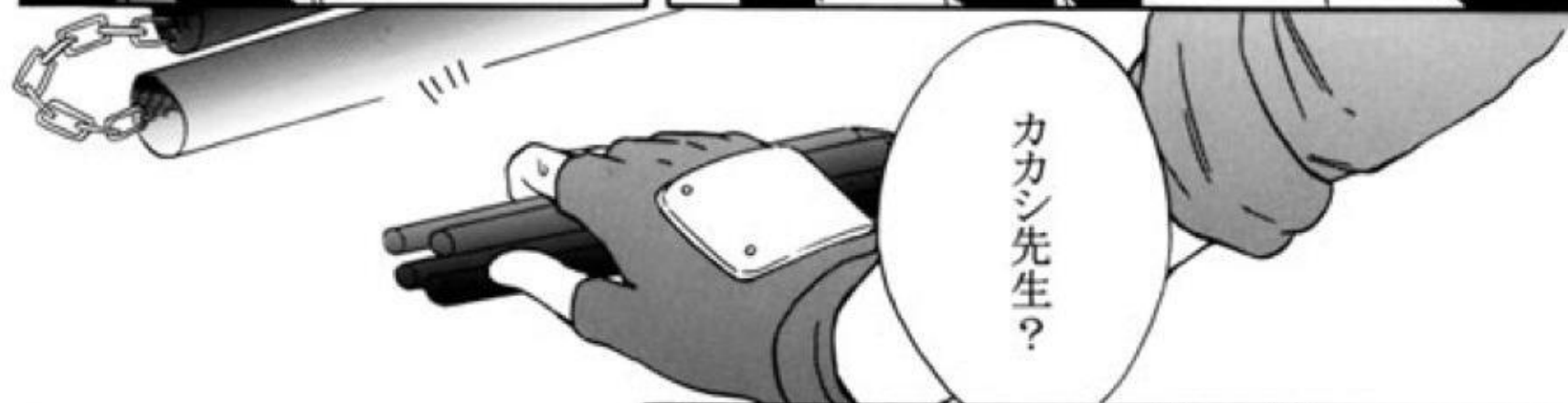


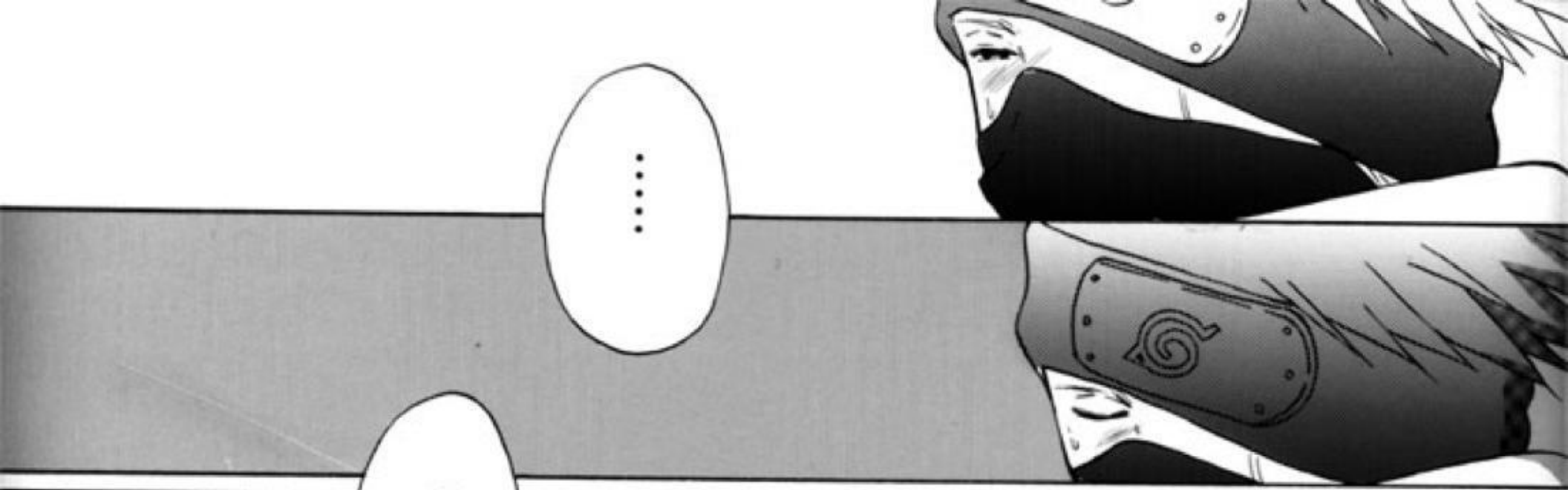


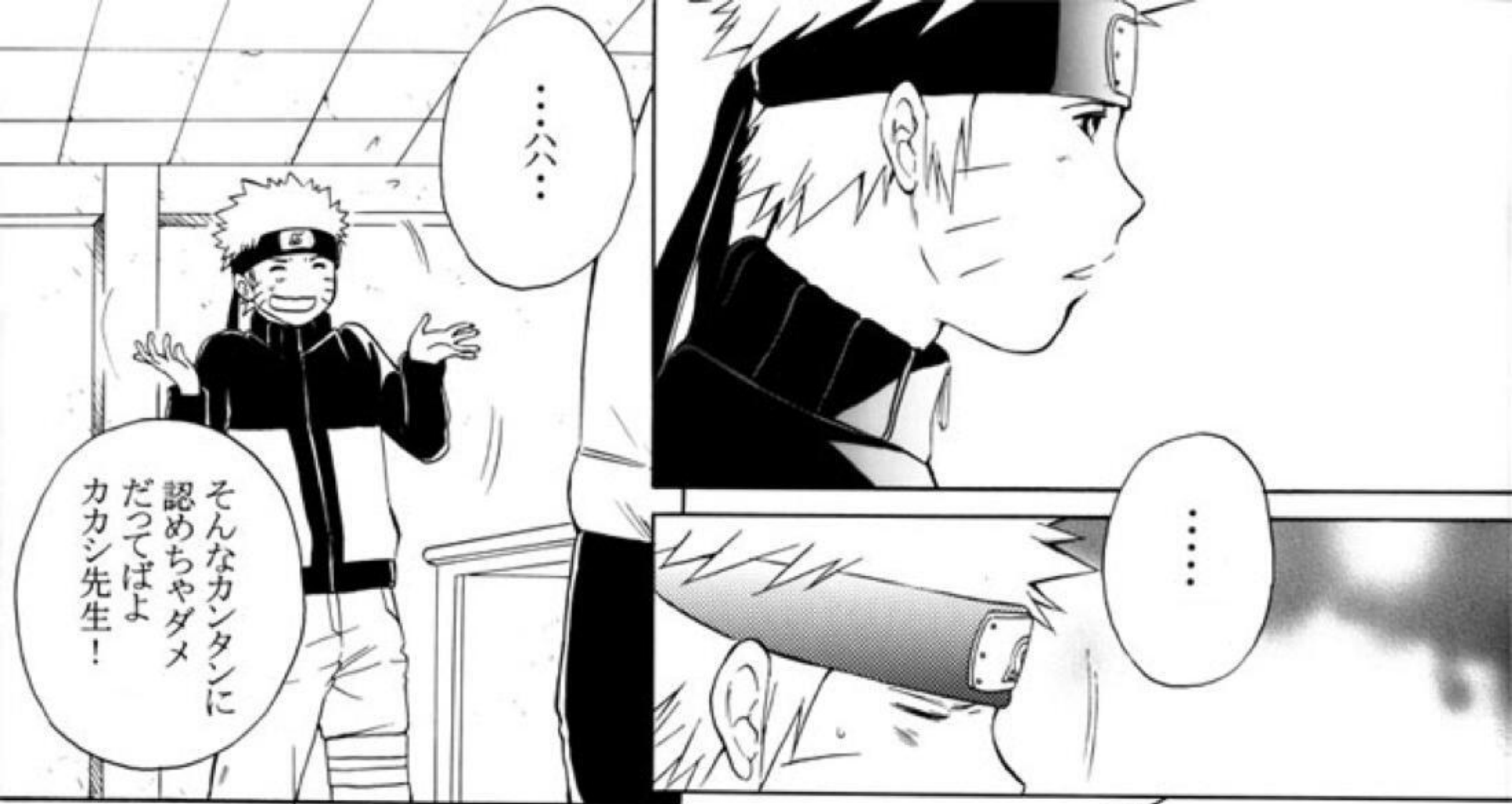




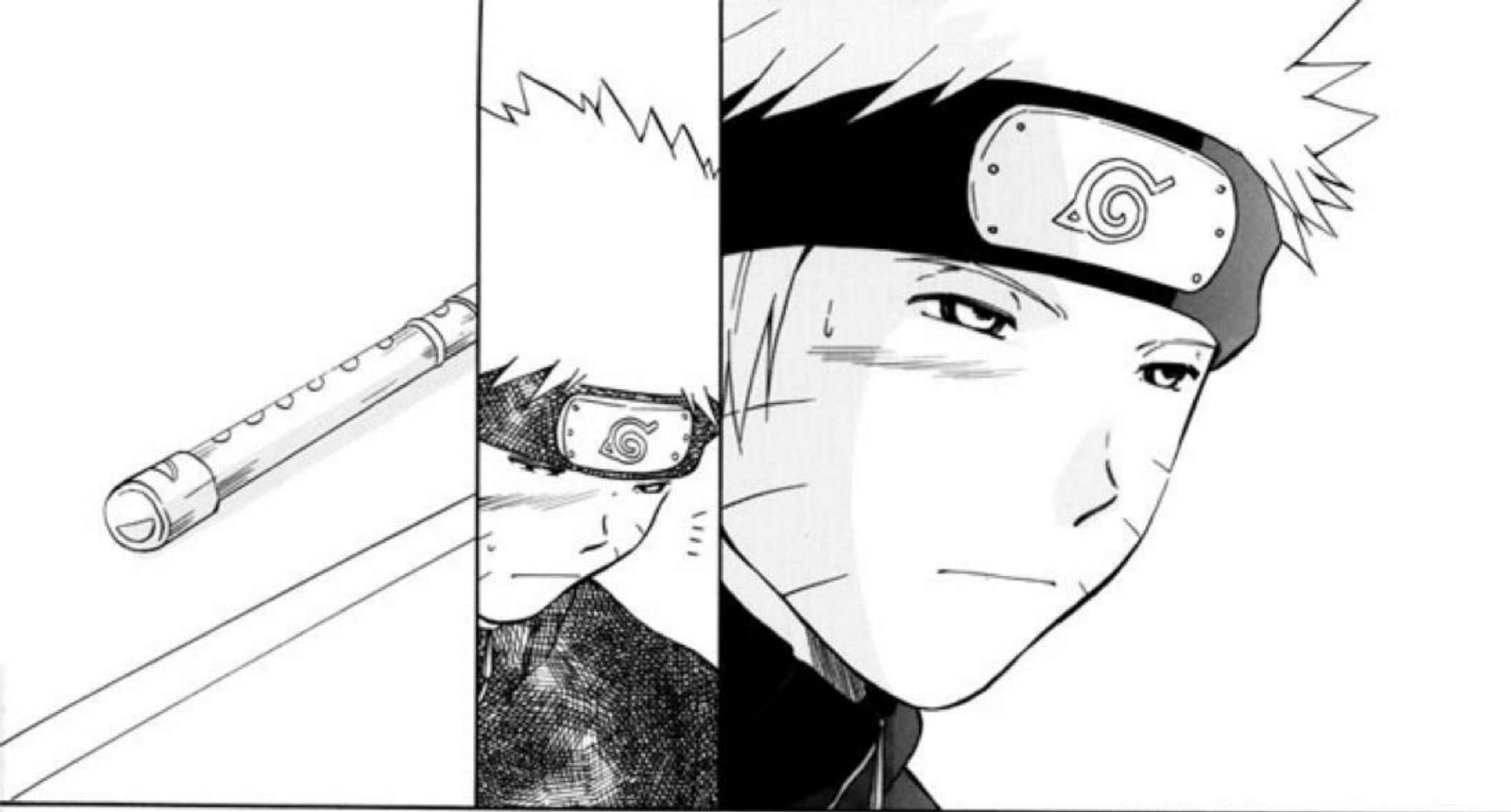




















それが…

一番知りたい
ナルトの本音だったなんて



恋人…

失格だな…

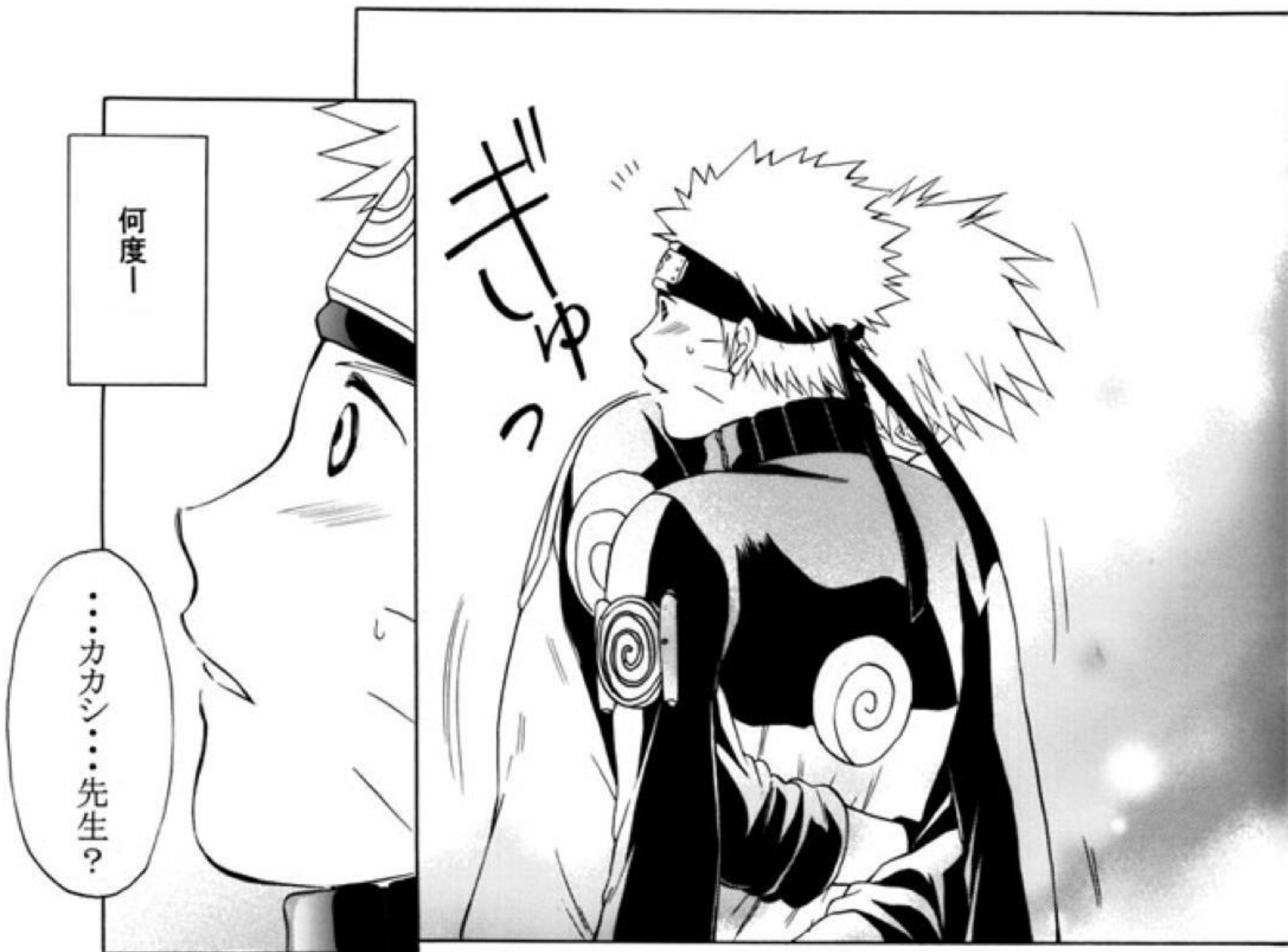
…あ！
そうだ

オレってば
今日ラーメンに
誘うつもりだった
んだってばよ！

とつとつこれ
片しちゃつてさ！
笛のこと報告したら
一楽行こうよ！

な！
カカシ先生？





最近のオレは
どうかしてるよね…

抱き合っても…

…え？

ナルトを守って
やるべきが
追い詰めてるね…

そんなつもりじゃ
ないんだけど…

前とは何かが
変わってしまった
んだろうか？

な…何言ってる…！

そ、そんなの
カカシ先生のせいだけ
じゃないってばよ！

オレたちは

オレ…オレだって
どうしたらいいか
わからなくて

ナルト

変わってしまった
んだろうか？



なのに

オレのも
聞いてくれる？



...

一緒にいたいと
思う気持ちだけは
強くてー



なぜなんだろう



...それによつては
オレを捨ててくれて
構わないから



どうして
なんだろう...





END

この話は

『倍音』の存在を知ったときに思いついたものだったのですが
描いた当時、やぼったいネームが多いなあ・・・と思ったのですが
今回改めて読み直して、やっぱり恥ずかしくなりました・・・
でも、形に残せてよかったなと思える一話でした。

人を思う気持ちは倍音のように

聞こえることなく、見えることなく、形に証明できることもなくとも、
いつもどんなときにでも

人と人の間に、そして、カカナル二人の間に

流れていたらいいなという思いを込めて描きました。

読んでくださいまして、ありがとうございました！